

CONTENTS

| | |
|------------------------------|---|
| 春季企画展 資料が秘めた物語Ⅲ 「洋学者がみた西洋文化」 | 2 |
| 夏季企画展 あれも葉 これも葉 | 3 |
| 洋学資料館の夏休み教室開催!! | 4 |
| NEWS FILE | 5 |
| 友の会のページ | 6 |
| 資料館展示品から | 7 |
| INFORMATION (催し物のご案内) | 8 |

洋学 資料館

No. 28
September, 2021



津山市坪井下の安藤家です。江戸時代後期、坪井下村は三河国
挙母藩（現在の愛知県豊田市あたり）内藤家の領地となっていて、
安藤家は美作国内にある挙母藩の飛び地12か村を統括する大庄屋で
した。ここに学僕として寄宿したのが岸田吟香です。吟香は、挙母
藩の領地であった中坩和谷村（現在の美咲町）で1833（天保4）年
に生まれ、安藤家の当主善一に才能を見出されて13才から2年間屋
敷に住みこんで勉学に励みました。その後善一は津山城下へ吟香を
送りだし、吟香は修業を重ねてさらに江戸へ出ると、幕末から明治
時代にかけて日本初の液体目薬「精鑄水」の販売をはじめ、多彩な
活躍をします。吟香は大成してからも善一への恩義を忘れることは
なく、安藤家との親交は長く続いたのです。

（津山市坪井下）文・写真：名誉館長 下山純正



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



春季企画展
資料が秘めた物語Ⅲ
—洋学者がみた西洋文化—

■会期・令和3年3月13日(土)～6月13日(日)

江戸時代の洋学者たちは、西洋から医学や植物学、化学などの新しい学問を受容するだけでなく、衣・食などの文化にも関心を持って様々な記録を残しています。今回の企画展では、洋学者たちが残した資料をもとに、そこに秘められた「西洋文化・文明への好奇心」を読み解きました。一つめは「新元会図の語ること」と題して、仙台藩医の大槻玄沢が西洋の暦(太陽暦)での新年を祝おうと、江戸の家塾芝蘭堂で開いた宴新元会(オランダ正月)をテーマにしました。宴の様子を描いた「新元会図」(展示資料は複製)には、西洋の食器や衣服、洋書や文具(鴛管)などの品を見ることが出来ます。参加した洋学者たちが西洋の文物へどのような関心を持っていたかを、当時の書籍なども併せて展示して紹介しました。

二つめのテーマ「洋学者たちの鉄道見聞録」では、幕末から明治時代にかけて、洋学者たちが鉄道という新しい西洋の技術・文明をどのように見たのかを紹介しました。江戸時代後期には鉄道の情報は書籍を通じて日本へ伝わり、箕作阮甫も著書『聯邦志略』で「火輪車」と紹介しました。1854(嘉永7)年にはペリーが幕府への贈り物として鉄道模型を持参し、その様子は絵巻や瓦版で人々へ伝えられます。幕末になると使節団や留学生たちが海外で実際に鉄道に乗車し、1866(慶応2)年にイギリスへ留学した阮甫の孫奎吾は「矢に勝る速さ」と感想を書き残したのです。

コロナウイルスの感染拡大により、岡山県に緊急事態宣言が発出されたため、5月15日(土)から当館も臨時休館し、春季企画展は休館中に閉幕を迎えることになってしまいました。会期前半でご観覧いただいた方々からは「洋学者たちがワクワクしながら西洋の物を見ていた気持ちが伝わってくるよう」といった感想が寄せられました。

夏季企画展

あれも薬 これも薬

■会期・令和3年7月3日(土)～11月7日(日)

人は太古の昔から、自然界にある植物や動物、鉱物などを薬として使ってきました。どんな物がどの病に効くのか、試しながら経験的に発見してきたのです。資料館では、現在そうした薬に関する企画展を開催しています。

江戸時代の薬の原材料は、自然由来の生薬でした。漢方医学を学んだ医師らは、刻んで乾燥させるなどの簡単な加工を施して作った生薬を複数組み合わせ、患者の体の状態にあわせて薬効が高くなるように漢方薬を調合しました。

17世紀後半以降、実学(実用的な学問)を尊重する気風が生まれ、薬の原料を研究する本草学も進展していきます。18世紀初頭まで薬の調合に必要な生薬の供給は、中国からの輸入に頼っていましたが、薬の需要が高まる中で、国産化が求められるようになりました。

また、西洋医学を学ぶ医師が増えてくると、珍しい西洋の薬への関心も高まり、それまで日本では知られていなかった西洋薬も持ち込まれるようになります。日本で初めて西洋内科医学書を翻訳・刊行した津山藩医の宇田川玄随は、内科治療に用いる西洋薬に関心を持ち、「遠西草木略」を原稿にまとめています。玄随の西洋薬への関心は、養子の玄真、その跡を継いだ榕菴へと引き継がれ、二人によって『和蘭薬鏡』や『遠西医方名物考』などの薬学書が世に出ました。

本展では、「漢方薬」「西洋薬」「売り薬」「動物由来の薬」という4つの視点で、江戸時代から明治時代にかけて、人々が薬にどのような関心を持ったのかを紹介しています。本展は11月7日(日)まで開催しますので、見学がお済みでない方はぜひご来館ください。「あれも薬になったのか、これも薬になったのか」と、楽しみながらご観覧いただければ幸いです。



ヒンデローペンの
トークイベント開催 等



下山先生



永江先生



岡山先生

NEWS FILE
ヒンデ(ダ)ローペンの
トークイベント開催

8月1日(日)、トークイベント「洋学の糸が紡いだーヒンデローペンの広がりーオランダ伝統的装飾技法作家 永江絹子先生を囲んで」が資料館のGENPOホールで開催されました。これは、洋学資料館展示室の装飾を手掛け、毎年夏休み教室で絵付けをご指導いただいているヒン



デローペン作家の永江絹子先生のスタジオ創立30周年を記念し、Kinukoヒンダローペンスタジオ主催、津山市共催で実施したものです。永江先生を囲んで、洋学やヒンデローペンを通じて交流のある公益財団法人松浦史料博物館長・平戸オランダ商館長の岡山芳治先生、そして、当館の下山純正名誉館長が対談を行いました。永江先生のオランダ・ヒンデローペンでの見聞からお話からはじ



作品展の様子

まり、資料館の新館建設時にヒンデローペンを装飾として取り入れることになった経緯や、その後の資料館や松浦史料博物館、平戸オランダ商館との交流と、展示やワークショップなどの事業の展開について話題が広がりました。人数制限をしての開催となりましたが、夏休み教室の受講生の方などが参加され、和気藹々とした雰囲気でした。また、7月29日(木)から8月2日(月)には、洋学資料館の旧館(旧妹尾銀行林田支店)を改修して平成30年にオープンした「ポートアート&デザイン津山」において、永江先生の30周年記念展「彩生ーオランダの伝統工芸に魅せられて」が開催されました。



津山市学校教育研究センターの研修会

コロナ禍の中、感染対策しつつ
研修会や団体見学を実施

昨年から続くコロナ禍の中で、たくさんの方の見学や講座、研修会の予定が中止や延期になっています。現在は、感染拡大の状況を注視し、対策を取りながら行事や見学、出講に対応しています。7月には県内小学校の団体見学が再開し、3日(土)には津山市立図書館主催の「調べる学習コンクール」の学習会、8月には3日(火)に津山市学校教育研究センターの社会科の先生方の研修会、7日(土)には津山高専のジュニアドクター育成塾への出講がありました。

洋学資料館の夏休み教室開催!!

昨夏は新型コロナウイルスの感染拡大により全ての教室を中止しましたが、今年は参加人数を少なくするなどの感染対策をして、3つの教室を開催し、一つの教室が中止になりました。ご指導いただきました先生方、参加者のみなさん、ご協力ありがとうございました。



□ ヒンデローペンの作品づくり

7月31日(土)には小学生と保護者、8月1日(日)には一般の方を対象にした、オランダの伝統的装飾技法ヒンデローペンの作品づくりを開催しました。

資料館展示室の装飾を描かれた永江絹子先生にご指導いただき、木製のコースター3枚に桜や野路菊、デ이지の絵柄を絵付けしました。力作を完成させた参加者たちからは「使うのがもったいないから飾っておきます!」という感想も飛び出していました。

□ 江戸時代の化学書からの実験

8月7日(土)には、江戸時代の化学書からの再現実験教室を開催しました。今年度は、例年通り午前・午後の2回開催し、20名の小学生に参加していただくことができました。

前半は津山高専の廣木一亮先生のご指導で「宇田川榕菴と電池のひみつ」、後半は津山高専の南洋明先生、篠山優也先生のご指導で「含密開宗の実験・金属樹をつくる」を行いました。津山高専のSSH科学部生の皆さんには、教室全体の補助に入っていただきました。

参加者は、銅板と亜鉛板の間に

硫酸ナトリウム水溶液を含ませた濾紙をはさんで電池を作り、電圧の測定やLEDの発光を試みしました。また、身近なフルーツが電池になることも学びました。

次に、金属の結晶をつくる実験を楽しみました。銅線の切れ端に硝酸銀水溶液をかけ、銀樹ができる様子をルーペで確認してスケッチしたり、醋酸鉛入りの寒天に亜鉛片を埋め込み、鉛樹ができる様子を観察しました。

参加者は、実験結果をメモしたりしながら、好奇心いっぱいの様子で実験に取り組んでいました。

□ かんたんなくみまを学ぼう!は

8月21日(土)には、川崎医科大学現代医学教育博物館の金子倫教先生、坂本由美先生、森川奈津美先生にリモートでご指導いただき「からだのしくみを学ぼう!」を開催する予定で準備を進めていましたが、8月20日(金)から岡山県が、「まん延防止等重点措置」の対象地域となり、資料館も再度臨時休館となったため、残念ながら中止となりました。

友の会の活動

友の会は創立40周年を迎えました

津山洋学資料館友の会は、「楽しみながら洋学を学ぶ」をモットーに活動を続け、創立40周年を迎えました。そのあゆみを振り返ります。

友の会の創立

津山洋学資料館は、1978（昭和53）年3月19日、津山市川崎の旧中国銀行津山東支店の建物（元妹尾銀行林田支店。現在のポートアート&デザイン津山）を改修して開館しました。

その2年後、当時の木村岩治館長が、市民大学講座で眞作阮甫の対ロシア交渉のための長崎出張の日記「西征紀行」を解説する講義を行いました。この講座の受講生から「こうした学習



友の会発足記念講演会・結成総会

会を継続して欲しい」という要望が出されたことが発端となって、友の会の発足に向けた準備が進められ、昭和56年3月22日、当時の美術教育館で発足記念講演会と結成総会が開かれたのでした。

友の会の活動

同年9月には第1回の研修バス旅行が行われ、神戸の南蛮美術館・滴翠美術館を訪問しました。以降、近隣の洋学関係施設や史跡を訪ねる研修バス旅行、美作地域の



第1回研修バス旅行

洋学史跡をめぐる史跡見学会（昭和60年開始）を毎年行っています。

このほか、随時講演会や座談会、演奏会などの事業を開催しています。中でも会員の皆さんが楽しみにしていると言われるのが、江戸時代の洋学者が食べた西洋料理を再現する「オランダ料理の夕べ」や「ロシア料理の夕べ」の会です。

また、宇田川家三代墓所の移転や仁木永祐顕彰碑の修復に協力するなど、洋学者の史跡整備にも力を入れています。

40周年記念事業

今年度は創立40周年の記念事業として5月に総会と記念講演会を予定していましたが、岡山県に緊急事態宣言が発令されたことを受けて延期となりました。記念研修旅行や祝賀会（オランダ料理の夕



第5回オランダ料理の夕べ（平成18年11月25日）

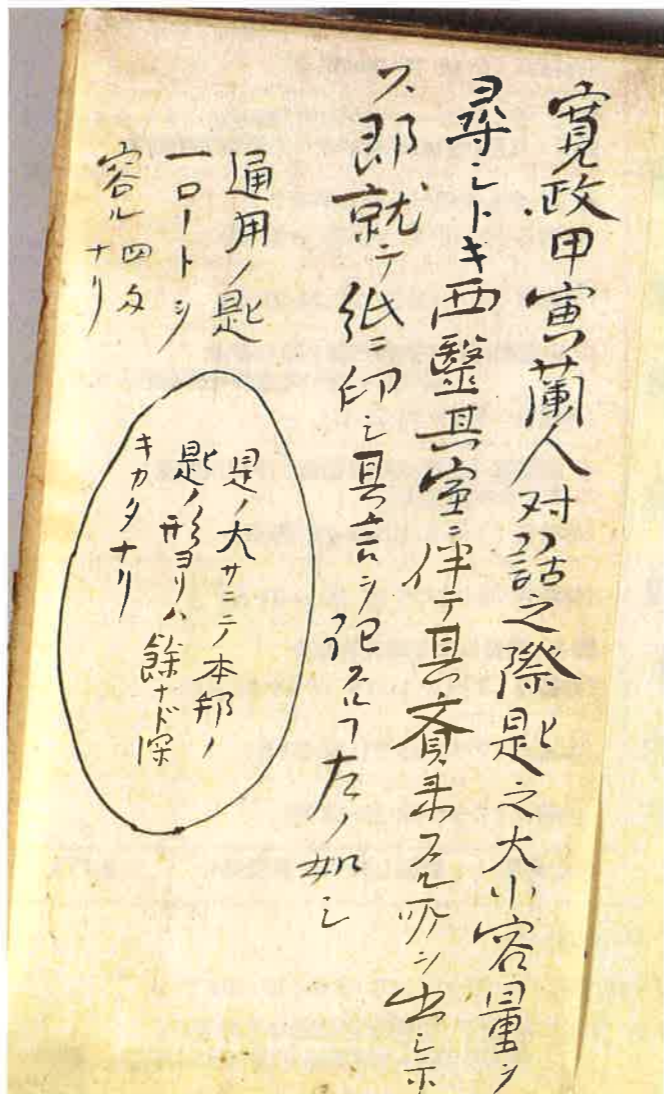
べ）も無期延期です。今年度中には、津山市林田にある眞作家墓所の整備事業と40周年記念誌の刊行を予定しています。

友の会はこれからも洋学の特性を活かした様々な活動を、楽しみながら行っていく予定です。随時会員を募集していますので、興味のある方は事務局へお問い合わせ下さい。

資料館展示品から

宇田川玄随、オランダの
スプーンの大きさを記録

はりこみちよう
宇田川榕菴旧蔵張込帖



寛政甲寅、蘭人對話之際、匙之大小容量ヲ尋シトキ、西醫其室ニ伴テ、其齋来スル所ヲ出シ示ス、即就テ紙ニ印シ、其言ヲ記スル。左ノ如シ

是ノ大サニテ本邦ノ匙ノ形ヨリハ、余ナド深キカタナリ

通用ノ匙一ロートヲ容ル四匁ナリ

当館が所蔵する「宇田川榕菴旧蔵張込帖」は、榕菴旧蔵と名付けていますが、榕菴だけでなく、養父の玄真や養祖父の玄随が収集した資料も含まれています。

今回ご紹介するのは、張込帖の中の玄随の資料です。最初に楕円の形が目を引いて、「是ノ大サニテ本邦ノ匙ノ形ヨリハ余ナド深キカタナリ」「通用ノ匙一ロートヲ容ル四匁ナリ」等と書き込まれています。添えられた文章には、「寛政甲寅の年、オランダ人と對話する際、匙の大小の容量を尋ねると、同席していた医師が持参した匙を出し示したので、紙に印をし、説明を

記した」ということが書かれています。

寛政甲寅、すなわち寛政6（1794）年の5月、將軍に貿易のお礼を述べたため、長崎出島のオランダ商館長が江戸を訪れました。この時『解体新書』翻訳者の一人である幕府の医官だった桂川甫周は、蘭学者仲間もオランダ人一行との対談に同席できるように幕府へ願書を提出します。陪臣である各藩の藩医たちが同席するのは難しいことで、嚴重な手続きを経ようやく願いが聞き届けられ、仙台藩医の大槻玄沢、白河藩の森島甫斎、そして玄随が甫周と共に一行の宿所である長崎屋を訪ねて対談を行った

のでした。玄沢はこの時の様子を、医療や医学について質問したものの意志が十分に通じずもどかしかったと記録しています。

張込帖の資料から、この時玄随が商館医の Keller（ケルレル）に西洋の匙の大きさと容量を教へてもらったことが分ります。当時玄随は内科医学書の翻訳を終えて薬学へと研究を進めていました。薬などの計量に用いる匙の容量を知ることが、大切なことだったはず。おそらく玄随も、玄沢と同じように言葉の壁を感じながら、それでも何とか情報を得ようと努力していた様子が窺えるのです。文：学芸員 田中美穂

INFORMATION

令和3年度の催し物(予定)

企画展

4月

- 企画展「資料が秘めた物語Ⅲ
—洋学者がみた西洋文化—」
(休館日：12・19・26・30日)

3/13～
資料が秘めた物語Ⅲ
洋学者がみた西洋文化
～6/13

5月

- 5月16日～6月20日新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
- 16 友の会講演会・総会 中止
(休館日：6・7・10・16～31日)

6月

(休館日：1～21・28日)

7月

- 企画展「あれも薬 これも薬」
- 31 親子でヒンデローペンの作品づくり
(休館日：5・12・19・26・27日)

7/3～

あれも薬
これも薬

8月

- 1 ヒンデローペン絵付け体験教室・トークイベント
- 7 江戸時代の化学書からの再現実験教室
- 8月20日～9月12日新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
- 21 からだのしくみを学ぼう！ 中止
(休館日：2・10・11・16・20～31日)

9月

(休館日：1～13・21・22・24・27日)

10月

- 企画展「箕作省吾生誕200年記念
蘭学者が描いた世界地図(仮)」延期
(休館日：4・11・18・25日)

～11/7

11月

- 企画展「生誕200年記念 宇田川興齋」
- 友の会史跡見学会
(休館日：1・4・8・15・22・24・29日)

11/27～
生誕200年記念
宇田川興齋
～2/20

12月

(休館日：6・13・20・27・29～31日)

1月

- 30 職員による研究報告会
(休館日：1～3・11・12・17・24・31日)

2月

(休館日：7・14・15・21・24・28日)

3月

(休館日：7・14・22・23・28日)

■ 企画展 ■ 催し物 ■ 講演会 ■ 友の会

※新型コロナウイルス感染症の影響により、催し物は予告なく変更になることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。



— 企画展の延期と会期変更について —

新型コロナウイルスの感染拡大により、秋季に予定していました企画展「箕作省吾生誕200年記念 蘭学者が描いた世界地図(仮)」の開催を次年度以降に延期することになりました。

それとともない、夏季企画展「あれも薬 これも薬」の会期を、9月20日(月・祝)から11月7日(日)まで延長します。

— 『きらめく洋学の星々』再版! —

ご好評をいただいて在庫切れとなっていました『きらめく洋学の星々—津山の洋学 宇田川家・箕作家を中心として—』を、元国立豊田工業高等専門学校教授の幸田正孝先生に監修していただいて大幅に増補改訂し、再版しました! 資料館の受付で販売中です。



A 5判 84頁 400円

ご利用案内

- 開館時間/9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

■ 入館料/

| 一般 | 一般(65歳以上) | 高校・大学生 |
|----------------|----------------|----------------|
| 300円 (240円) | 200円 (160円) | 200円 (160円) |

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分